

同窓会の幹事を任された田中は、久しぶりに高校時代の友人に電話を入れた。

「はい、金井です」

「夜分遅く恐れ入ります。田中と申しますが孝子さんいらつしやいますか？」

「まだ仕事から帰ってこないんですけど・・・」

「あ、そうですか。私、孝子さんの高校時代の友人なんですけど、来月同窓会を開くことになりました、その連絡なんです」

「そうですね。それでは帰ってきましたら孝子の方からすぐお電話させます。すみませんが、お名前をもう一度お願いします」

「田中和美と申します」

「田中和美さんですね。そちらのお電話番号は、孝子は存じておりますか？」

「はい、ご存知だと思いますが一応申し上げます。九一二一一五一九です」

「九一二一一五一九ですね、わかりました。孝子は最近忙しいようで、帰りが遅い日が多いんです。あまり遅いようでしたら明日連絡させますね」

「すみません。あいにく明日は一日中外出してしまいますので、できれば伝言をお願いしたいのですが」

「はい、どうぞ」

「来月九日の金曜日に、七時から神田にある海洋飯店という中華料理店で同窓会を開くことになりましたので、その出欠を来週までに知らせてほしいとお伝え下さい」

「来月九日の七時からですね。わかりました、伝えておきます」

「よろしくお願いします」

数日後、金井から連絡が入った。

「はい、田中です」

「夜分恐れ入ります。金井と申しますが、和美さんご在宅でしょうか？」

「孝子？ 久しぶり」

「本当、久しぶりね！ この前同窓会の連絡をくれたそうだけど、残念ながら九日は出席できそうにないの。最近忙しくてなかなか定時に帰れないんだ。九日は七時前に終わったとしても、それから神田まで行ったら大分遅くなるし・・・」

「もしよかったら、途中からでも出席できない？ みんな久しぶりに会えるのを楽しみにしているから」

「それじゃ・・・早く終わったら顔を出すようにしようかな。一応、お店の住所と電話番号を教えてください」

「住所は東京都千代田区神田錦町一―十九、電話番号は〇三―九八二一―三五九一、海洋飯店っていう店なの。大通り沿いにあるから場所はすぐに分かると思うわ」

「わかった、ありがとう」

「それじゃ、当日楽しみにしてるから」

田中はそう言って電話を切り、まだ出欠のはっきりしない何人かに、再度確認の電話を入れた。